

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴	郊外の田園に立地しているため、自然豊かであり、季節感を感じることができます。当法人の福祉理念「あなたらしさいつまでも」を念頭に利用者の過去の生活歴や嗜好などのアセスメントを活かした活動提供、及び、自立支援に力を入れています。 併設の認知症対応デイサービスとグループホーム合同で、外出行事・趣味の会活動を通して交流しており、ニーズに合わせて、「デイサービス→小規模多機能→グループホーム」と移行がしやすい環境です。また、地域とのつながりにおいては、年1回の感謝祭や、毎月のきらめきサロンを実施、地域住民が気軽に施設に足を運んでいただき、職員や利用者との馴染みの関係作りを目指しています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 岡保きらめきハウス	管理者	横山 可奈子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 職員が利用者お一人お一人と対話する中で、ご本人の思いを知り、それを叶える為には何が必要かを、ご本人、ご家族、スタッフ皆で一緒に考えたプラン内容にしていく。 情報の共有、ケアの進捗状況の見える化し、定期的なカンファレンスを行う事で、利用者のニーズを叶える事ができるチーム作りをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ご本人様の想いを知り、その人の「～したい」の実現に向けてアセスメントを行い、ミーティング等で話し合うように努めた。 勤務時間上、職員全員がミーティングに参加できないこともあり、全メンバーさんの情報やケアの進捗状況の共有が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングでの情報共有は参加できない場合もある為、アセスメント表を通して共有すべきである。 新規利用者の場合は、アセスメントだけでは本人の望む暮らしなのか、家族の意向なのか分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の困り事や望む暮らし、普段の暮らしを知り、地域資源を活用しながら、その人が住みなれた地域で過ごしていけるよう支援していく。 本人と家族との対話を重ね、その人に必要なプランの見直しを行い、申し送りノート等活用しながら、全職員が共通協議の上でケアが出来るよう努めていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流スペースが開設されるにあたり、多世代の方が日常的に気軽に立ち寄る事が出来る事務所となるような環境作りをしていく。 事務所に職員が不在にならないシフト管理と、不在時でも来客者が困らない案内を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あそびば」がオープンした事で、行事ごとを通して多世代の方が来所して頂く事ができた。 趣味の会を開催する事で、麻雀やカラオケ等、地域の方が足を運んでくださる事が増えた。カラオケでは利用者の方も一緒に参加することが出来た。 電話応対や来客者の応対について職場会議で話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> 来客者の案内についてはよくなっていると思う。また電話対応についても相手の名前をはっきり聞いている。 コミュニティーホールについては、施設利用者の方、GH、小規模関係なく利用され、活気があっていいと思う。 一度だけ、鍵がかかってか入れないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 電話応対や来客者の応対について再度見直し、気持ちよく来所して頂ける様に努めていく。 地域の方や他事業所の方が、気軽に立ち寄れるように工夫し活気溢れる事業所を目指していく。 朝の鍵の開け忘れがないように、職員全員に開錠時間の共有を行い、開け忘れの無いように努めていく。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流スペースが開設されるにあたり、多世代の方が日女敵に気軽に立ち寄ることが出来る事務所となる環境作りをしていく。 ・事務所に来て頂くだけではなく、事業所からも積極的に地域に出向き、自然で日常的な関わりを目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流スペースでは定期的に行事を開催し、地域の方との交流を図ることができた。 ・地域のこども園へ出向き、お手伝い(ほころび直し、掃除、洗濯)が継続して行えている。 ・岡保ふるさと祭りでは職員が参加するだけではなく GH メンバーさんが参加し、自慢のコーヒー試飲コーナーを催し、交流を深めた。 ・地域の方の協力を得て畑での苗植えや収穫等行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡保きらめき「いこっさ新聞」は良いと思う。施設へのボランティアの方を表記し、名前を出す事で今後ボランティアする方も少しずつ増えていくのではないかと。 ・地域の人が岡保きらめきに行くだけではなく、利用者さんも地域にもっと出向くといいと思う。 ・最近の話題をテーマにして講座などが開かれ、良いと思います。 ・地域のイベントにも参加されており、地域の方にも知られていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡保きらめき「いこっさ新聞」を継続発刊し、地域の方々の活動内容を掲載し、更に輪が更に広がり交流を深めていく。 ・地域の神社の掃除や町内のゴミ拾い等の奉仕活動を通して、地域へのお役立ちに努めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の〇〇したいという声を叶えていく為に、地域の方と一緒に活動していく中でその人らしい暮らしを実現していく。 ・地域の方との日常的な関わり、活動参加の継続によりご本人の暮らしを支える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の〇〇したいでは、畑をしたいと言う利用者さんが多く、地域の方の協力してもらいながら、活動することが出来た。 ・〇〇したいでの実現では、利用者との対話の中で理解を深めたが、一部の利用者からの取組みになってしまった。 ・地域の方とサロンや行事を通じて、社会参加へとつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな所に出向いていると思う ・岡保きらめきでのイベントや地域の行事には参加している。本人の住んでいる所では参加はしていない。地域では、長くも歩けないし外に出られるようなイベント、行事がないので、ありがたい。 ・一部の利用者のみのような印象がある。 ・計画的に実現出来ているので素晴らしいと思います。 ・買い物や畑など積極的に外に出られていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の地域での本人の暮らしを知り、生活の中でも地域に出向いていけるよう在宅でのアセスメントを強化していく。 ・ご利用者の「〇〇したい」の声に対して、一部の利用者のみではなく、一年間を通して、利用者全員の「〇〇したい」の声を聞き、その人らしい暮らしを実現していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に地域の方だけではなく、ご家族にも参加の声かけを行い、参加できない場合でもご家族に共有する仕組みを作っていく。 ・地域課題を事業所全体の課題として捉え、地域に根付いた事業所となるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にご家族の方も参加して頂く事が出来たが、極一部の参加であった。 ・運営推進委員会で話し合った事項をご家族様の共有することが出来ていなかった。 ・運営推進会議で出た課題や意見について、参加された方々と議論することが出来たが、企画参加については不十分であった 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設で行う行事等について、企画など施設の職員だけではなく地域の人にも混ぜて企画された方が良い ・運営推進会議で話し合った事項を報告事項として行う事を願う。 ・運営推進会議に参加したことがないのでどういったことをしているのかわからない。(岡保地区以外の利用者家族) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で話し合った事項を共有する仕組みを作り、利用者家族に情報発信していく。 ・多くの家族の方が参加して頂ける様に、運営推進会議の日時や内容について案内を行っていく。 ・地域に出向き、ニーズ・課題に向き合い協力し合える体制を整えていく。
項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等では定例課題として挙げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で年に2回の災害訓練を行ったが、全ての職員が各項目について把握するには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設で行う防災訓練については、地域のボランティアも混じって行うと良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡保きらめき「いこっさ新聞」や、運営推進会議を通して、防災訓練への協力案内を行っていく。 ・メンバーさんに避難経路がわかるように表示の工夫をしていく。